



杉林 憲治(すぎばやし・けんじ)議員

一問一答

新幹線開業から見た課題

◆2年間の開業効果はあったか

Q 北陸新幹線金沢開業が3年目に入り、小松開業に向けて工事が始まった。開業効果は現れているか。

A この2年間で、市内の主要観光地や宿泊施設での入込客数は増加している。

◆小松の文化の魅力は

Q 石川県の魅力は歴史に裏打ちされ、暮らしに根づく文化が評価されている。本市の文化の魅力は。

A 小松ならではの資源、歴史物語、自然景観である。なかでも、いしかわ歴史遺産認定を受けた「平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち小松」、日本遺産認定を受けた「珠玉と歩む物語・小松」は、小松を代表する文化の柱である。

Q 文化の厚みが必要である。そのために日本遺産の認定を受けた「こまつ珠玉と石の文化」についてもっと市民の理解と磨きをかける政策を推進していくべきである。

A 平成29年3月に「こまつ珠玉と石の文化10年プラン」を策定し、貴重な資源、先人の技と心を継承していくことを基本理念とし、目標値を設

け計画を推進している。また、レガシー認定制度を設け、地域に眠る石の文化を市民と共に掘り起こし、未来へ継承していくことを進めている。

◆あと6年で小松開業が始まる

Q 首都圏ではまだまだ小松の情報が少ないとの指摘がある。加賀地域全体で地域の魅力を発信していくべきである。その取り組みは。

A 現在、小松の文化を見て、感じて、体験する小松版文化プログラムを作っている。発信方法については、今後しっかり考えていきたい。



小松の文化の代表である子供歌舞伎

タブレット端末を導入した本会議を開催しました

本市議会ではペーパーレスで効率のよい会議を目指し、平成28年1月にICT推進プロジェクトチームを立ち上げ、タブレット端末を導入するための調査研究を重ねてきました。

本年4月には、全議員にタブレット端末を貸与し、各委員会でタブレット端末を使用し、会議を行ってきました。6月の本会議では、これまで配布していた厚さ数センチにもなる膨大な資料をすべて電子化し、それをタブレット上で閲覧しながら会議を行いました。



タブレットの導入により、環境負荷の低減、資料作成のコストや手間の削減、会議の効率化等が図られました。



導入したタブレット端末

タブレット端末とは…

コンピュータ製品のひとつ。タブレット(平板)型で、キーボードはついておらず、液晶の画面に指先やペンをあてながら操作するタッチパネルが採用されている。

ICT 運営協議会

タブレット端末を使った会議をよりスムーズに行うため、ICT 運営協議会を発足しました。メンバーは次のとおりです。

会長 吉本慎太郎 委員 木下裕介、新田寛之、吉村範明、浅村起嘉

予算決算常任委員会総括質疑

会派自民

新田寛之委員

◆高齢者総合相談センター費

Q 相談件数はどのように推移しているか。

A 平成23年度1040件が、平成28年度は4389件と年々増加している。

Q 高齢者の権利を守る取り組みは。

A 注意喚起やチラシ配布、出前講座等を行っている。

Q 暮らしやすい地域づくりの取り組みについて。

A 市内福祉施設では、送迎バスの空き時間を利用した買い物物支援を実施している。

Q 加算評価とは。

A 予防・共創の取り組みに応じ、委託料の加算を行うものである。

Q 施設入所の際、身元保証人や身寄りがいない場合の対応は。

A 介護保険施設では法令上、保証人の有無で申し込みの拒否はできないが、それ以外の民間施設では保証人を求めることが多く、成年後見人をつけてもらう等している。

表 靖一委員

◆公共施設の更新について

Q 6月補正予算での件数、予算額全体に占める割合を問う。

A 件数28件、金額16億2000万円であり、全体の3分の2程度が改築・改修といった更新事業である。

Q 公共施設マネジメント計画が立案されてきた背景及び将来にわたる財政的負担がいかに程になるのかを問う。

A 建て替え等の時期を迎え多額の費用が必要となるほか、また社会環境の変化や市民ニーズに的確に対応するため計画を策定した。必要な経費は、国の推計モデルによると、1年あたり約109億円と試算される。

Q 概算で年間100億円かかるとも聞く。市民や業界団体に対して理解をもらう取り組みが必要と考ええるが如何か。

A 民間活力を最大限に活用するPPP手法をこれまでも進めてきており、この中での協議等で皆さんの理解が深まってきていると感じている。

Q 6月補正予算における市道整備の実情とその考え方について問う。

A 機能アップ等を図る新規事業は長期計画に基づき行っており、生活に密着した側溝改築等の整備は、市民の利便性を考えて実施している。

Q 人口減少の下、抑制的に新規の市道整備が考えられているが、コンパクトシティの考え方をとり、如何なる方針で選択と集中を進め、市の都市整備を進めていくのかを問う。

A NEX T10年ビジョンに沿った形で整備を進めていきたい。

Q 子育て支援総合コーディネーター費補正予算でカブッキーランドに関連予算6350万円が付されているが、使途の概要について問う。

A 大型遊具やその他の器具、備品などの購入費、小松市負担分の人件費、敷地使用料である。

Q ボーネルンドと提携した「学びのひろば」を整備されるが、その狙いについて問う。

A ボーネルンドのノウハウを活用し、小松駅前における学びのシンボルとしたい。

Q ABCフッキングと提携したフッキングスタジオの整備について、その考え及び狙いについて問う。

A 子ども達に、食を通じた学びを実践する場を提供したい。

用創出などにより里山地域の活性化につなげる。また市所有の土地を賃貸にて貸し付ける。

Q 酒蔵建設にあたり予定地の地質、水源等の調査は万全か。

A 土壌調査、水質検査で、危険物質は検出されていない。

Q なぜ日本酒なのか。また、醸造規模が現存の酒蔵の数十倍と聞

A 蛍米に比べ収穫量が多い酒米の生産により農家所得の向上が見込まれる。また日本酒の販売は、都市部や海外富裕層向けに行う。

Q 伝統産業を守り、行政として公平正な対応を求める。

A 意欲のある企業、生産者には各種方面から支援していきたい。

川崎順次委員

◆遊泉寺銅山跡整備費

Q 遊泉寺銅山跡の整備を進めるならば主要地方道小松辰口線整備が一番大事だと思うが。

A 一日も早い完成を目指し、県に要望していきたい。

Q ふるさと納税を受けて整備する時、関連子会社が請け負う利益供与があってはならない。

A 国の制度上、市が利益供与することはない。

◆(仮称)小松駅南駐車場整備費

Q 2億4200万円について、駐車場予定場所は。

自民党(まじ)

井田秀喜委員

◆農山漁村活性化整備費

Q 整備目的と行政の関わりは。

A 農山漁村の定住促進等の計画実現に向けた整備支援であり、雇

- A** 日の出町の日の出病院敷地である。
- A** 全体面積は3600㎡か。この中で、小松市名義の土地は。
- A** 法人と個人の土地が3600㎡であり、敷地中央部に市所有の土地約400㎡がある。
- Q** この土地について個人のものとして判を押した書類があるが。
- A** 登記簿で市の土地と確認している。
- Q** 書類が存在した場合はどうなるか。
- A** お答えいたしかねる。
- Q** 2億4200万円全て土地買収費か。
- A** 跡地整備費を含んでいる。
- Q** 買収費はいくらか。
- A** 現段階では答えられない。
- Q** 解体はどうなるのか。
- A** 今後の協議事項である。
- Q** 解体費、買収費も含む整備費で納得するのか。
- A** 売買について、所有者、相続人の承認を得ている。
- Q** 別の債務負担行為限度額1億7300万円は何か。
- A** 市土地開発公社による建物がない用地の先行取得費である。

- Q** 地主から買う金額が明確でなく、この駐車場整備費は相当高い。今後利用料というものが発生してくると思うが。
- A** 料金設定は今後の課題である。

▼みどりの風▲

- 宮川吉男委員**
- ◆小学校屋外運動場改修費
- Q** 能美、荒屋小学校運動場改修の目的と財源は。
- A** 主な目的は水はけの改善、水たまりの解消である。財源は防衛省の交付金を活用する。
- Q** 今回新たな工法と工期は。
- A** 新素材を活用し、11月上旬から約2ヶ月の予定である。
- Q** 完成後、駐車場として使用可能か。また今後の改修計画は。
- A** 効果を持続させるため、利用方法は、学校や地域の団体等と話し合っていく。また、今後要望や実地を確認し、計画的に改修を行っていく。
- ◆大杉クロスカントリーコース整備費
- Q** 目的と財源は。
- A** 施設を充実させ、競技力の向上と普及を図るもので、財源の80%は辺地対策事業債である。
- Q** コース内容と地権者の対応は。

- A** 全長1000m、最大幅7mのコースである。地権者の了解が得られればと考えている。
- Q** オールシーズンとしての活用策は。
- A** 競技やレクリエーション等、様々な活用が考えられる。

◆浅村起嘉委員

- ◆病児・病後児保育利用支援費
- Q** 予算50万円の支援内容と対象の児童は。
- A** 利用1回2千円まで、年収360万円未満世帯第2子と640万円以下第3子以降で全体の約15%になる。
- Q** 病後児保育の利用状況はどうか。
- A** 4施設で保育士1名、看護師1名で各3人計12人の受け入れができ、昨年は517人で1日平均約2・1人であった。

- 額とも6月時点で昨年の7割増しである。

◆橋本米子委員

- ◆病児・病後児保育利用支援費
- Q** 働くママにとって病児保育は助かる。場所はどこか。
- A** 市民病院に併設されている病児保育ルームで実施している。
- Q** 利用率が高まり定員6名では少ない。今後の拡大策を問う。
- A** 今後の利用状況を注視し、定員増や南部地区での病児保育実施について検討していきたい。

◆片山瞬次郎委員

- ◆庁舎設備改修費
- Q** 7370万円の概要と更新理由。
- A** 老朽化した庁舎電気室内の設備を行政事務、防災の拠点としてフル更新するものである。
- Q** 向上する機能と電気の低損失効率・見える化。
- A** 高効率変圧器への更新による損失改善と見える化により省エネ向上に努める。
- Q** 非常用発電機設備について。
- A** 機能向上で安心感が深まる。

◆無党派

- ◆ふるさとこまつ応援寄附金
- Q** 6月補正額と活用についてはどうか。
- A** 5100万円を追加計上し、当初予算と合わせ一億円とした。八日市地方遺跡の調査、公立小松大学の開学準備、地域公共交通、産業観光の推進などに活用している。
- Q** ふるさと納税制度の変更点と影響、今年の状況は。
- A** 返礼品を寄付額の3割以下にすることで影響はない。件数、金額とも6月時点で昨年の7割増しである。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 灰田昌典
副委員長 宮西健吉
全議員所属

平成29年度小松市一般会計補正予算(第1号)

■公立小松大学開学準備費について

大学設置は本市にとって、大変重要な事業であるので、将来を見据え公立小松大学が他に誇れ、魅力ある大学にするためにも、逐次、議会に対して報告するよう求めました。

現在のパンフレットについては、内容が不十分との指摘もあり、今後は多世代が交流する学びの場となることなどの内容を充実させた魅力的なパンフレットを作成するよう強く求めました。

■防災体制強化費について

消防本部から防災行政無線を発信できるようにするものであるが、これらを含め、災害への備えの一層の充実を求めました。

また、これまでも県と連携し防災訓練を実施しているとのことであるが、北朝鮮がミサイルを過去に例を見ない頻度で発射しているため、「アラートを使用した情報伝達や避難時の初期行動を確認できる防災訓練を実施するよう求めました。

■ICT教育環境推進費について

持ち運びができるタブレット端末

の利点を最大限に活かし、学校内外で多様な学び方に活用していくためにも、教育委員会としてタブレット端末の活用方法にかかる調査研究を重ねながら、学校の取り組みを後押ししていくよう求めました。また、特定の教室に限定されている無線LANのアクセスポイントについては、セキュリティ対策に留意しながら、学校内の無線エリアを拡大するよう求めました。

■小学校芝生整備費について

今後、更なる芝生化を推進していくためにも、既に整備した学校から芝刈り回数や管理費用などの維持管理に関するデータを集約し、今一度検証を行うよう求めました。

■小学校屋外運動場改修費について

表層土の改良や暗渠配水管の埋設に加え、新素材の活用等により、運動場の透水性を高める工事を行うものであるが、改修による効果を長続きさせていくためにも、学校や地域行事等における駐車場としての運動場の使用を最小限にとどめていくよう求めました。

■ひとともがらぎ科学館費について

全来館者の増加に反し、有料来館者が計画を下回ったことにより、管理運営費等を減額するものであるが、今後、事業の縮小により、安易に特定防衛施設周辺整備調整交付金による補てん金額を増額することがないよう、有料来館者数を増やす取

り組みについてより工夫を重ねていくよう求めました。また、情報発信においては、イベントPRに偏ることなく、施設内容についても継続的にPRしていくよう求めました。

■子育て支援総合コーディネート費について

特に「子育てスマイルステーション」については、法定健診を中心に全ての乳幼児が利用対象者となる「すこやかセンター」との差別化を図り、利用者本位で土日にも育児相談ができる気軽な相談場所として、「子ども子育てあんしんネット」の中核施設として整備される重要な拠点施設であるため、今後は、事業の進捗状況を随時報告していくよう求めました。

なお、一部の委員より、カブッキランド運営実行委員会で負担する専門職員の人件費の分担やカブッキランドの運営内容、責任のあり方については、より時間をかけ、慎重に審査すべきではないかとの意見が出されました。

■地域交通推進費について

栗津温泉観光周遊バスを期間限定で運行するものであるが、今後、地域の活性化や高齢者の移動手段としても期待できることから、継続的な運行ができないか検討していくよう求めました。

■本社機能等企業立地助成費について

今回初めて宿泊機能を有する施設

の建設に助成することであるが、助成対象の解釈について、条例との整合性を分かりやすく説明するよう意見が出されました。

■向本折墓地整備費及び墓所永代使用料について

使用料が割高ではないかとの観点から、今後、使用料収入の使途として、墓地環境整備に充ててほしいという意見が出されました。

■(仮称)小松駅南駐車場整備費について

日の出病院敷地3600㎡と市所有400㎡の合計4000㎡を駐車場として整備するものであるが、本事業について、よりわかりやすい丁寧な説明を求めました。

■(仮称)学生まちなか文化・交流館整備費について

非常に希少な建物であることから、年数経過による老朽化や、2階に整備される交流ホールは多くの収容人数が想定されることから、改修に当たっては構造補強に努めるよう求めました。また、一部の委員より、管理者を確定せずに建物整備を先行していることに対し、計画性が十分ではないかとの意見が出されました。

予算の執行においては、様々な意見を踏まえ、PDCAサイクルを十分に働かせるよう求めました。